

# 名古屋芸術大学後援会報

Vol.76 2024.3.31



## CONTENTS

■ 目次	1
■ 会長ご挨拶	2
■ 2023年度 第2回学生支援(食料品・生理用品の配布)	3
■ 2023年度 後援会理事研修(一日研修)	4
■ コンサート鑑賞・交換留学生作品展・ワンコインランチ	5
■ 名古屋芸術大学芸大祭活動報告	6
■ 学務部報告 学生支援について	7
■ 学務部報告 キャリアサポートについて	9
■ 就職最前線 「私が内定をもらうまで」	11
■ 第4回後援会賞授与式	13
■ 2023年度 第27回ブライトン大学賞授与式	14
■ 名古屋芸術大学賞	15
■ 卒業演奏会・卒業制作展・修了演奏会・修了制作展	16
■ 皆さん受賞おめでとうございます	19
■ 国際交流事業について	21
■ 後援会補助公開講座	23
■ トピックス・ピックアップ	27
■ サポーターズクラブ	30
■ 親の想い	31
■ 子の想い	32
■ 公認サークル(壁の華・せせらぎ合唱団)・後援会で一緒に活動しませんか	33
■ 後援会賛助会員紹介・編集後記	34

**【表紙説明】** 第51回名古屋芸術大学卒業・修了制作展 第4回後援会賞受賞作品  
 タイトル 味覚のカタチ  
 デザイン領域 メディアコミュニケーションデザインコース 安達 真菜



## 会長ご挨拶

名古屋芸術大学後援会  
会長 恒川 和久

### 『卒業生に贈る言葉』

卒業生のみなさん、卒業おめでとうございます。大学院修了のみなさん、修了おめでとうございます。心よりお祝い申し上げます。

新型コロナウイルスが日本で猛威を振るい始めたのは2020年であり、コロナに翻弄された学生生活でした。授業はその多くがリモートとなり、友人と自由に会えない等、さまざまな活動が制約を受けました。学生のみならず、保護者の皆さんも苦労した4年間（大学院生は6年間）であったと思います。そんな状況でも、みなさんは学業を修め、社会へ羽ばたこうとしています。学生のみならず、保護者のみなさん、そしてご尽力いただいた大学関係者のみなさんに、心からの敬意を表します。

近年、ニュースや新聞でよく耳にする、目にするワードとして、AI（人工知能）・SDGs・ダイバーシティ・働き方改革・DX（デジタルトランスフォーメーション）・IoT・カーボンニュートラル等があり（ここに記したワードはほんの一部です）、社会の変化は著しく速くなっています。また、世界に目を向けると、経済的にも政治的にも、情勢は日々目まぐるしく変化しております。そんな時代だからこそ、自ら情報収集・分析し、考え、向かう道を見据えて、目標に向かって行動していくことがより大事であ

る、と考えます。名古屋芸術大学で過ごした時間が、そんな力を培ってくれていますので、自信を持って進んでください。

名古屋芸術大学後援会は、これからもみなさんを応援しております。人生の新たな一頁を始めるみなさんの飛躍とご活躍をお祈り致します。

### 『一年を振り返って』

2023年度は、5月に新型コロナウイルスの感染法上の取り扱いが2類から5類に引き下げられ、マスク着用・収容人員上限の制約が緩和された中での活動でした。学生が参加するコンサートの鑑賞・食料品と生理用品の配布・後援会報の発行・各種活動への支援などに取り組んで参りました（詳しくは後援会報Vol.75・Vol.76をご覧ください）。

印象に残ることは、いくつかありますが、強く感銘を受けたのは、芸大祭で奮闘する学生たちの姿です。新型コロナウイルスのために、2020年・2021年と途絶えていた芸大祭を 実行委員のみなさんを中心に、過去の資料を調べ創意工夫で、芸大祭を成し遂げた学生たちに感動し、パワーをもらいました（詳しくは6ページをご覧ください）。

名古屋芸術大学後援会は、これからも学生に寄り添って活動して参ります。今後も多くの方々のご理解とご協力を賜りますようお願い申し上げます。

## 【特集 1】 2023年度 第2回学生支援(食料品・生理用品の配布)

第2回学生支援として、食料品と生理用品の配布を行いました。

日時：2023年12月6日(水) 10:15~13:30

場所：東キャンパス 交流テラス

西キャンパス B棟1階 学生食堂前

後援会理事およびサポートチームの保護者合わせて、総勢19名で実施しました。

真空ごはん(600セット)、レトルトカレー(300セット)、レトルト丼(300セット)、生理用品(250セット)を配付しました。

学生からのお礼の言葉がとても嬉しく、元気をもらいました。配布の合間に大学カリキュラムの質問や子供が大学生活で不安に思っている事などを相談したりと保護者同士の交流を楽しむ事も出来ました。

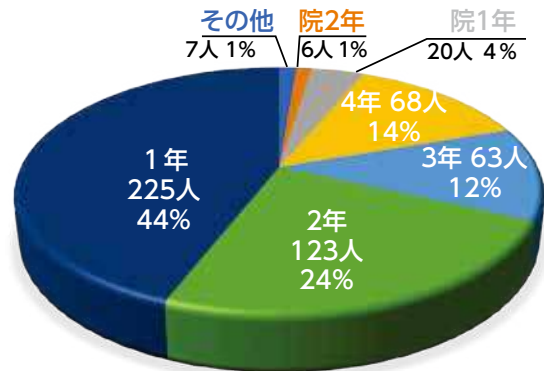
学生からは「一人暮らしなので食料品は有り難いです。」「普段昼食を抜かしがちで助かります。」など多くのアンケートが寄せられました。今後も学生支援を通して、学生に寄り添う応援をしていきたいと思えます。

実施にあたりご協力頂きました大学関係者の皆様に深く感謝致します。また、食料品を購入させていただいたローソンストア100徳重名古屋芸大駅前店の皆様、生理用品を購入させていただいたサンドラック熊之庄店の皆様にもお世話になりました。

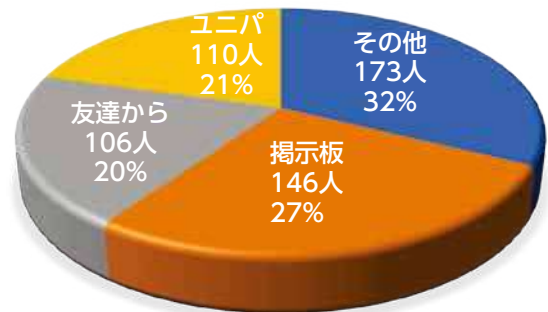


東キャンパス

### ■ 何年生ですか？



### ■ 今回の食料支援をどのように知りましたか？



副会長(事業委員長) 杉山 美鈴



西キャンパス



## 【特集2】 2023年度 後援会理事研修（一日研修）

後援会理事研修は、芸術に触れながら、現役の役員、理事及び顧問の交流を目的としております。今年度は総勢30名にて2023年10月7日（土）に一日研修が行われました。

コロナ禍以降で予想以上に混雑した名古屋駅に集まり、バスで琵琶湖湖畔へと向かいました。

最初の目的地は佐川美術館。建造物含め見応えのある展示作品があり、駆け足気味にしないと予定時間に収まらないほどでした。また改めて個人で訪れたいと思います。

近江牛を昼食でいただいた後、次の目的地である水郷の里へ。葦の林を縫うような水路を船頭さんの手漕ぎでゆっくり進みます。船頭さん

から歴史などお話を聞きながら心地よい時間を過ごせました。

最後にラコリーナ近江八幡に寄り、休憩しつつお土産を購入して名古屋駅への帰路に着きました。

バスの中ではコミュニケーションが取れるよう、イントロクイズなどレクリエーションを行いました。この繋がりを今後の活動に活かし、学生たちを支える後援会事業を円滑に進めるようにしていきます。

事業委員 杉田 敦



**【特集3】  
理事研修**

**名古屋芸術大学フィルハーモニー管弦楽団第12回定期演奏会・  
名古屋芸術大学ウィンドシンフォニー第3回定期演奏会の鑑賞**

理事研修として、2023年11月29日(水)・三井住友しらかわホールにて名古屋芸術大学フィルハーモニー管弦楽団第12回定期演奏会、12月14日(木)・愛知県芸術劇場コンサートホールにて名古屋芸術大学ウィンドシンフォニー第3回定期演奏会を鑑賞しました。

当日は学生の演奏を鑑賞し、子どもたちの成長を実感するとともに、名古屋芸術大学管弦楽団の演奏技術の高さを実感できる貴重な機会となりました。

今後もさまざまな大学行事を通して、学生への支援に繋がられるよう、後援会としても活動して参ります。



**交換留学生作品展への参加**

2023年11月24日(金)西キャンパス Art & DesignCenterWestにて「交換留学生作品展」が開催され、そのオープニングレセプションに参加しました。今回はイギリスとフランスの大学からの留学生2人の作品が展示されました。

留学生と名芸大の学生との交流を通して、新たな創造が生まれ、学生の皆さんが活躍していくことを願っています。



**ワンコインランチへの支援**

名古屋芸術大学学務部が主催した「第1回クラブ・同好会対抗 学食メニュー企画提案コンペ大会」で優勝した「トマト卵丼」が、12月に東西キャンパス食堂でそれぞれ3日間、¥100で提供されました。後援会はその補助を実施しました。

優勝した「みんなの畑」のみなさん、おめでとうございます。



会長 恒川 和久



# 2023 年度名古屋芸術大学芸大祭活動報告

芸大祭西キャンパス実行委員長 川嶋玲志

2023年度の芸大祭は、東キャンパスにて3日間にわたり開催されました。今年度のテーマ「名芸十色(めいげいといろ)」には、芸術系総合大学である本学の東西キャンパスで学ぶ学生一人ひとりが持っている個性で、ご来場の方々に、また学生自身を、そして芸大祭を彩ってほしい、との想いが込められております。また、サブテーマとして「食」「創」「彩」「遊」「舞」「音」を設定し、カラフルな中にも一定の統一感を持たせることで、来場者の方々が出店や企画を見つけやすく、かつ学生の一体感を生み出しました。



当日は、場内全体や新たに建設されたテラスに多くの店が出店し、さらに新型コロナウイルスの影響により禁止されていた飲食の出店も解禁されたため、3日間で約60店舗の出店、約30団体のステージが会場をカラフルに彩り、合計で3000人を超える来場者で盛大に賑わいました。出店の種類は陶器や服飾品、似顔絵など多岐にわたっており、学生の個性が光っておりました。また、学内に設置されている複数のホールでは様々なコンサートや演劇が行われ、来場者がペンライトを振って楽しんでいる様子も見られました。

子ども向けの企画として、ふわふわドームや、らくがきコーナーなどを設置し、年代を問わず楽しめる芸大祭を目指しました。

芸大祭を運営する実行委員会は、1・2年生約15人が主体となり活動してまいりました。

昨年度の芸大祭が新型コロナウイルスの影響で3年ぶりに開催され「0」からのス



タートとすれば、今年度は「1」からのスタートでした。実行委員会として、3日間にわたる芸大祭を盛り上げるため様々な企画を立案いたしました。中でも、実行委員がデザイン・制作を手がけた芸大祭マスコットキャラクター「くろぶたくん」とアクリルスタンド・風船をはじめとした「くろぶたくん」モチーフのグッズは、子どもたちに大人気でした。

芸大祭は、学生にとっては成果発表を行う場であり、たくさんの方々にご覧いただけるとても貴重な機会です。また、ご来場の方々にとっては、地域の大学生との新たな交流から人と人との繋がりを感じられる一大イベントです。「学生にとっての芸大祭」と、「ご来場の方々にとっての芸大祭」の両立を目標に、この度開催に至りましたことを大変嬉しく思います。

末筆ながら、ご支援を賜りました後援会の皆様、開催にあたりお力添えいただいた教職員の皆様方、そしてご来場いただきましたすべてのの方々に、心より感謝申し上げます。



## 学務部報告

# 学生支援について

名古屋芸術大学後援会の皆さまにおかれましては、日頃より本学の運営に多大なるご支援とご協力を賜り、厚く御礼申し上げます。

新型コロナウイルスが2023年5月のゴールデンウィーク明けから5類になり、コロナ禍以前の状態に戻りつつあるなか、様々な活動が執り行われましたので、ご紹介させていただきます。

### 1.FYS(ファーストイヤーセミナー)開催

2023年4月5日(水)新入生を対象にした歓迎会「FYS(ファーストイヤーセミナー)」が東西キャンパスに分かれて開催されました。本イベントは「新入生自身に所属するキャンパスの施設等を理解してもらう」「新入生同士の交流を深める」「新入生が課外活動(クラブ、サークル、芸大祭実行委員会など)を理解する」ということを目的として、企画立案から当日の運営まで、先輩学生が担いました。

当日は、吹奏楽部による歓迎演奏からスタートしました。司会役である音楽領域声優アクティングコースに所属する2名の学生から本イベント開催のアナウンスがあり、続いて本イベントを企画した東キャンパス芸大祭実行委員長の小田原一華さん(舞台芸術領域 舞台プロデュースコース2年)および西キャンパス芸大祭実行委員長川嶋玲志さん(デザイン領域ライフスタイルデザインコース2年)から挨拶と自身が1年間で経験したことについて紹介がありました。

プログラムは、「自己紹介ゲーム」でスタートしました。5名で1グループとなり、積木式にグループ内のメンバーの名前と出身地を端から順に言っていくゲームです。司会学生2名と学生スタッフ3名でのお手本を見た後、



学務部 学生支援チーム サブリーダー  
白川 孝男

グループごとにゲームをスタートしました。一通り体験した後に、司会者から「グループメンバーの名前と出身地を全て言える自信のあるグループは挙手してください」との声掛けに、多くの挙手がありました。そのなかから3チームが選出され、参加者全員が注目するなか、それぞれ発表しました。発表後に景品が授与され、大きな拍手が会場から送られていました。短い時間でグループ5名全員の名前と出身地を覚えることになりましたが、初めて話すという緊張感を忘れて打ち解ける様子がありました。

次に、「謎解きゲーム」です。先ほどの自己紹介グループメンバーで、謎解きのヒントを見つけ出すためにキャンパスを巡ります。5つの謎を制限時間の50分で解き明かし、会場に戻るというものでしたが、早く解き明かすことが出来たグループもあれば制限時間ギリギリまで歩きまわっていたグループもありました。全グループが戻ったのを確認し、問題の解説と答え合わせが行われました。



「謎解きクイズ」に続いて、「クラブ紹介」が行われました。各クラブの紹介動画をスクリーンで映し出し、クラブごとに紹介メッセージが司会者から読み上げられました。この映像の作成および編集は、2年生を中心とした学生スタッフ自身が「私が新入生だったら、こんな内容を知りたい」という目線で作成していました。

そして、お待ちかねの「ビンゴ大会」です。学生スタッフが数字をひき、スクリーンに映し出していきます。「ビンゴ」がそろった順にくじを引いてもらい、景品を受け取っていきます。「ビンゴ!」の大きな声があがる度に、大変な盛りを見せていました。

最後は、1日の感想としてアンケートを実施し、締めくくりに再度東西芸大祭実行委員長の2名から挨拶があり、終了となりました。当日のアンケートでは、「楽しかった」「司会も進行も良かった」「謎解きで校舎について知ることが出来た」「初対面の人と友達になれた」など、好評的なコメントが多数でした。

## 2. 芸大祭

今年度のテーマは「名芸十色」。学生たちが個性を生かし、一体となって芸大祭を盛り上げるというメッセージを込め、2023年10月3日(金)～5日(月)に開催されました。在学生、卒業生、教職員、保護者様、地域住民らで賑わっており、3日間で計3,300名にご来場いただきました。模擬店や企画展など、芸術系総合大学として音楽、舞台、ダンスパフォーマンス、美術作品、制作物の発表および販売がありました。また、人間発達学部・教育学部の学生による小さなお子様向けの参加型企画も開催されており、ご家族連れで楽しんでいる姿も多く見られました。

芸大祭の実施に当たっては、芸大祭実行委員会を中心となって準備を行ってきました。多くの苦難や不安があったと思いますが、芸大祭を無事やり遂げた学生たちの達成感を味わっている様子が印象的でした。

芸大祭が無事終了出来たことは、芸大祭実行委員会や本学学生だけでなく、後援会様をはじめご支援・ご協力いただいたすべての皆さまのおかげです。厚く御礼申し上げます。

なお、次年度の芸大祭開催に向け、芸大祭実行委員会が早速活動を開始しておりますので、2024年度「芸大祭」もご期待ください。

## 3. クラブ・同好会対抗 学食新メニュー企画提案コンペ 大会

コロナ禍において、クラブ・同好会活動だけでなく、学生食堂も飛沫感染対策として運営を制限されましたが、この2つの点を同時に活性化することを目的に「クラブ・同好会対抗学食新メニュー企画提案コンペ大会」を開催しました。

1次審査は、応募総数14チームから書類審査にて5チームが選出されました。2次審査では5チームが10分間のプレゼンテーションを実施し、審査員による選考を行いました。5チームともに甲乙つけがたく審査は難航しましたが、優勝1チーム、準優勝1チーム、3位3チームという結果になりました。

優勝チームが考案した「トマト卵丼」(みんなの畑同好会考案)は、本学学生食堂を運営している共栄食品(株)にご協力いただき、「100円丼」として12月に東西キャンパスでそれぞれ3日間販売しました。実際に食べた学生に感想を聞いたところ「美味しいし、100円で食べられて嬉しい」「出来立て熱々で美味しい」といった声が多くありましたので、次年度も新しい取り組みで学生みなさんに楽しんでいただけるような内容を実施したいと考えております。

最後になりますが、学務部職員一同、日々努力してまいりますので、後援会みなさまにおかれましては、引き続きご支援・ご協力を賜りますようお願い申し上げます。

学務部報告

キャリアサポートについて

名古屋芸術大学後援会の皆様には、令和5年度においても、学生支援チームへのご理解とご支援をいただき心より感謝申し上げます。新型コロナウイルスの影響が残る困難な状況の中、学生支援チームでは、学生の皆さんのキャリアの発展と夢の実現に向けて、取り組んでまいりました。

学生支援チームでは、各学部・学科・領域・コースの特性を生かしたキャリア支援に注力し、学生一人ひとりの可能性を引き出す支援に取り組んできた結果、コロナ禍であっても多くの成果を達成できました。

令和2年1月に日本で初確認された新型コロナウイルスは、3年を経て令和5年5月8日ようやく「5類感染症」とされました。キャリア・就職関係においても、コロナ禍前に行われていた対面でのインターンシッププログラムや説明会の実施が増加し、学生の業界・企業・職種理解が一層深まるようになりました。また、大学

としても企業を招いた説明会実施や個別相談を積極的に展開できるようになりました。



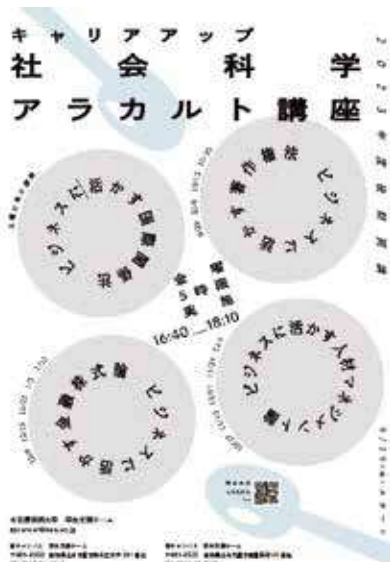
学務部 学生支援チーム  
チームリーダー  
伊藤 元房

学生の就職活動

においては、新型コ

ロナウイルスの流行によりキャリア支援の方法が柔軟に変化しました。オンライン説明会の増加はその一例です。本学学生は、一定数が東京や大阪に本社を持つ企業の採用試験を受験します。これまでは、東京や大阪の企業を受験する際は、直接の訪問が必要でしたが、移動には時間と費用面で大きな負担が生じます。これがコロナにより Web による説明会が増加しました。そしてコロナ後の現在も Web、対面を選択できる企業があり、学生の負担は軽減されたように感じます。

さらに、コロナにより採用を控えていた企業



※実施イベントのリーフレット(一例)

**秋から就活を頑張りたい学生さんへ**  
**馬力かけ直し決起大会**  
**10/5 (Thu)** 新西キャンパス  
 11:00 面接対策セミナー  
 12:00 12:15 12:30  
 16:30 ハイパワー講座  
 18:30 自分軸のを見つけ方  
**10/6 (Fri)** 新東キャンパス  
 14:50 面接対策セミナー  
 15:50 16:40 ハイパワー講座  
 18:10 投資・資産形成セミナー

**求人紹介**  
**履歴書やエントリーシート、ポートフォリオの作成・添削・相談**  
**45min 4年生限定**  
**キャリア相談DAY**  
 4月入社に間に合う! 就職個別相談会  
**面接練習**  
**1/30 Tue**  
 13:10 16:30  
 名古屋芸術大学 キャリアサポート室  
 career@nuu.ac.jp

5月の開始以来、約400名が利用しており、相談員は学生支援チームのメンバーに加え、企業に精通した社会保険労務士、中小企業診断士などが就活アドバイザーとして就職相談、面接対策、提出書類アドバイスなど就職に関するすべてに対応しております。

では、不透明感が解消されるにつれ採用活動を再開し、大学生を取り巻く就職環境は大きく改善しています。本学への求人情数も、令和3年3月、令和4年3月に卒業した学生の年間求人情数は約17,000件でしたが、令和6年3月卒業予定者の求人情数は、1月末時点で約31,000件と約1.8倍に増加しています。

今後も私たち学生支援チームは、学生一人ひとりの特性に合わせた支援を続けてまいります。特に、キャリア形成のサポート、企業との連携強化を通じて、学生が自らの才能を生かし、多様なキャリアパスを選択できるよう努めます。キャリア支援については、保護者の皆様のご理解と支援が不可欠です。今後とも、私たちの取り組みにご協力いただけますよう、心よりお願い申し上げます。

本学では、コースが多岐にわたっており、それぞれのコースで目指すキャリア、進路が異なります。このため、大勢を集めたガイダンスは伝わりにくいこともあり、学生に対するキャリア支援では、個別相談により一層力を入れて取り組んでおります。令和5年の新型コロナウイルスが5類感染症となつてからは「キャリア相談DAY」を設けました。これは、毎週木曜日、金曜日の午後に完全予約制による個別相談です。

**3月27日(月) ~ 4月7日(金)**  
**アートキャリアフェスタ2023**  
 未来を描くためのキャリア支援講座 & 相談会  
 会場: 名古屋芸術大学 西キャンパス・東キャンパス  
 対象者: 新4年~新2年生  
 ・エントリーシート書き方講座  
 ・学生生活相談会  
 ・面接対策講座  
 ・領域別就活研究講座  
 ・ポートフォリオ制作の基本講座  
 いよいよ始まった就職活動 早期内定獲得に向けて活かせる講座が盛りだくさん!  
 一事ははこちらから

**毎週水曜日**  
**キャリア相談DAY**  
 学生さんからよくある相談  
 企業選びや 業種・職種相談  
 履歴書や エントリーシート ポートフォリオの 作成・添削・相談  
 面接対策  
 SPや筆記試験 対策・相談  
 企業に送る メールの書き方  
 1人でも友達と一緒に相談に来てほしい人数限定です! まだ申請は無料も限定になってしまいます! 企業に送るメールの書き方にもお悩みの方が多いです!  
 名古屋芸術大学 キャリアサポート室  
 career@nuu.ac.jp



【就活最前線】

私

が就職内定をもらうまで

芸術学部 芸術学科 デザイン領域

メディアコミュニケーションデザインコース

4年生 山崎 来美

私はメーカーのインハウスデザイナーとして内定をいただきました。

3年の12月から始めた就職活動では、自分がどんな仕事や会社で働きたいかを見つけることが一番大変でした。大学では特定のメディアに拘らずデザインを学んでいたため、漠然とデザイナーになりたいという気持ちはあれどやりたいことが定まりませんでした。

そこで私が注力したのは、まず様々な企業の説明会に参加することです。将来のイメージを持っていないのは仕事の知識がないからでした。近年会社説明会はほとんどオンラインで開催されているため、1日に複数社の説明を聞くことができます。私は少しでも気になったら参加することにしました。一番最初に聞いたのは元々好きだった大手ゲーム会社の説明会です。一縷の望みにかけて応募し不採用でしたが、就職活動は入りたい企業に入るチャンスなんだと認識できましたし、そこで就職活動の土台となるポートフォリオを作ることができました。

次に力を入れたのはポートフォリオです。芸術系の就職活動の良い所は、面接だけではなくポートフォリオを用いアピールできることです。私は先生やキャリアの方、合同説明会にいらした企業様など様々な人に見ていただきご意見を賜りました。そのおかげで、まず伝わるものに仕上げることができました。また特定の業界を狙っていなかったため、ポートフォリオは自分の色を出すことを大切にしました。すると自然と自分の大切にしていることを理解してくださる会社を選んでいただけました。そしてインターン先や選考通過の反応を見る中で自分の得意なことを見つめなおし、内定先のお仕事を見つけることができました。



就職活動中、右も左もわからない私に寄り添ってご助言くださったキャリアセンターの皆様、誠にありがとうございました。就職活動を通じてとても素敵な会社に身を置けることになり、大変嬉しく感じております。4月からも張り切って頑張ります！

芸術学部 芸術学科 美術領域 日本画コース

4年生 柳沼 至

私は学校の美術の教員を目指す為、この名古屋芸術大学に入学しました。通常の場合、教員を目指すのであれば、教育学部のある大学へと進学する事が基本ですが、私は将来教育現場に立つ際に、より広く深い芸術に関わる知識や技法を生徒に教えたいと思い、実際に平面から立体の芸術に触れ制作しつつ、教員免許が取得可能である本学を選びました。また私は、教員になる(具体的には教員採用試験に合格する)為の勉強は三年生の夏頃から始めていましたが、本腰を入れたのは四年生の春頃からでした。通常の就職活動とは異なり、教育に関する法律や教育学、平面作品から立体作品までの幅広い芸術学といった学力試験と実技試験(私の場合は自画像でした)、面接、小論文、模擬授業といった幅の広い数々の試験を突破する必要があった為、周りの先生方や友人から力を借りることもありました。まず教育学、芸術学については参考書や問題集を購入し、本学の図書室や市の図書館で繰り返し解いていました。その際必要となる過去問は、受験する自治体のHPからの印刷や、



本学に残っていた古い問題用紙をお借りして、解いていました。次に実技試験では、対策として私が現在所属している日本画専攻の教授にお願いし、事前に描いた自画像から改善点を教えて頂きつつ、より上手に見える技法等を教えて頂きました。次に面接と小論文の対策として、東キャンパスから一週間に一度来て頂いている先生と面接の練習を繰り返し行い、同時に小論文の添削をして頂きました。次に模擬授業の対策としては、教育実習での経験を思い出しながら、ひたすら一人で大声で丁寧に授業を進める流れを繰り返し練習していました。以上が私が教員になる(教員採用試験に合格する)為に行ったことです。その成果もあり、無事教員採用試験に合格する事が出来ました。学力試験の対策や模擬授業対策の練習は一人で繰り返し行っていました。面接対策の練習や小論文対策、実技試験対策の練習では、多くの先生方や友人のお世話になりました。一人で将来の為に努力する事は勿論大切ですが、周りに居る先生方や友人から力を借りる事も大切です。先生方のアドバイスや友人からの励ましの言葉に支えて貰う場面も多くありました。私一人の力で教員採用試験に合格した訳では決して無く、多くの方々に支えて頂いた結果であることを胸に刻み今年の四月から、次は私が生徒を支える側になれるよう尽力していきたいと思っております。

## 芸術学部 芸術学科 音楽領域 ウインドアカデミーコース

4年生 松平 安奈

私は、管弦打楽器生産関連職（吹奏楽団員）の会社に内定をいただきました。

この会社は、楽器を作る工場勤務し、就業後に吹奏楽団として楽器の練習したり、工場勤務しない日は演奏会があったりします。

私が内定をいただくまで、7月に募集要項が掲載され、一次選考、二次選考、最終選考がありました。一次選考、二次選考では実技試験があったため、この会社に就職したいと決めてから以前より技術向上のため更に多くの時間を練習に費やしました。

大学入学したきっかけは、音楽の指導者になりたいと思っていました。ですが大学3年生まで明確に就きたい職が見つからず、ひたすら楽器を吹き続けていました。

入学後、吹奏楽やアンサンブル、個人のサクソフォンを学んでいく中で奏者側になりたいと思うようになり、大学4年生になった頃この会社に入社したいと決めましたが、それまでにも先生方や先輩方に就職に関して相談をしていました。ほとんどの方に音楽を仕事として続けていくことは狭き門であるという厳しいお言葉を頂いていました。私は、だからこそ本気で取り組みたい、好きな音楽を仕事にしたいと強く思うようになりました。

また、この会社の就職試験を受ける中で私のアピールポイントとなったと思うことは、演奏活動を積極的にして多くの経験ができていたことです。

大学4年間で、学内演奏会のためのオーディションは積極的に受けていました。また、大学や先生、先輩から頂く演奏の仕事や地域のイベントでの演奏などにも精力的に取り組みました。毎回反省点もちろんありますが、回数を重ねるごとに自分の自信にもなっていました。また多くの演奏会やそのためのオーディションあった為、常にモチベーションがあったことも私はずっと音楽が好きで仕事にしたいと思える理由だったと思います。

大学4年間で様々な経験をすることで不安になることや落ち込むことももちろんありました。ですが、それでも私には音楽しかない！楽器しかない！と思えたのは、これまでの経験で楽しいと思えたり音楽は素敵だなと実感していたからだと思います。これから就職活動をされる方の中には、将来が不安だったりどうしたらいいのかわからなくなってしまう方もいるかもしれませんが、今やりたいと思ったことに積極的に取り組み、好きなことを一生懸命まっすぐに取り組んで自信を持って欲しいと思います。お読みいただきありがとうございます。皆様のご健闘を心よりお祈りしております。



## 人間発達学部 子ども発達学科

4年生 清原 朱音



私は愛知県から小学校教諭の内定をいただきました。私は3年次の教育実習があるまで、将来どのような職業に就こうかと迷っていました。そのため、それまでの大学生活はただ漠然と

保育や教育について学んできていました。しかし、教育実習で小学校教諭という職業のやりがいや、子どもたちと過ごす毎日の楽しさを味わうことができ、小学校教諭になろうと強く決心しました。また、その後も実習先の小学校でボランティア活動を続け、実際の現場の先生方の姿から授業づくりの工夫や子ども一人ひとりに対する配慮や支援方法など、多くのことを学ぶことができました。

それから目標が明確になり、教員採用試験の勉強に本腰を入れ始めました。大学の空きコマの時間やアルバイトまでの時間を有意義に使いながら勉強したり、大学の先生方にたくさん協力をしていただき、面接や小論文の練習をしたりして、自信をつけていきました。筆記対策は、同じよう

に小学校教諭を目指す友人と毎日勉強をしていました。お互い教え合ったり励まし合ったり、勇気づけ合ったりしながら勉強できたおかげで、最後まであきらめずに頑張ることができたと思います。また、面接や小論文の練習はとにかく回数を重ねることが大切だと先生方に教えていただき、アドバイスをいただきながら練習を重ねていきました。先生方には多くのアドバイスをいただいたり、暖かい励ましをいただいたりすることができ、感謝の気持ちでいっぱいです。私は先生方や一緒に頑張ってくれた友人のおかげで合格できたと思っています。

これから就職活動をされる方は、大学で学んだことや経験したことをぜひ思い返してほしいです。どのような道に進むにも必ず大学4年間の経験は糧になります。そして、大学の友人や家族、先生方などの周りの人の存在を大切にしてほしいです。また、様々なことを体験することがとても大切だと思います。積極的にボランティア活動に参加したり、何かに挑戦したりすることで、多くの刺激を受けることができると同時に、きっと目標や夢を見つけることができるような気がします。自分を信じて頑張ってください！



第4回  
Award selection

第4回後援会賞授与式

名古屋芸術大学卒業・修了制作展が、2月16日～2月21日に西キャンパスで開催され、名古屋芸術大学後援会賞を4名の学生に授与させて頂きました。学生生活の集大成となる力作に感動し、胸が熱くなりました。

卒業生、修了生のさらなる活躍と飛躍をお祈り申し上げます。



領域	美術領域 洋画コース
氏名	畑中未羽さん
作品名	あの壘をここでかんじる
領域	デザイン領域 メディアコミュニケーションデザインコース
氏名	安達真菜さん
作品名	味覚のカタチ
領域	デザイン領域 テキスタイルデザインコース
氏名	藤川裕樹さん
作品名	好きの制限
領域	大学院 美術研究科美術専攻
氏名	早川龍之介さん
作品名	マジで助けてくれ

最優秀賞、北名古屋市長賞などの企業賞の受賞者は右表の通りです。



賞名	領域	コース	学生名	作品タイトル
優秀賞	美術	日本画	大竹しおり	こころの音
	美術	日本画	田口果歩	癡怒
	美術	日本画	菅原 寧々	春の便り
	美術	アートクリエイターコース	橋本悦司	moratorium machina
	美術	アートクリエイターコース	坂田実帆	永遠のK^ - ☆
	美術	アートクリエイターコース	高木愛菜	ぬくくてさむい
	美術	洋画	松田直子	のぞく
	美術	洋画	村瀬ひより	さかいめ
	美術	洋画	福田悠	天国の砂、月の石
	デザイン	イラストレーション	藤田亜弓	あめこちゃん
	デザイン	イラストレーション	増富清香	Boys
	デザイン	ヴィジュアルデザイン	野田晴香	Frame Playing
	デザイン	ヴィジュアルデザイン	森聖也	ヒトはいるいる
	デザイン	ヴィジュアルデザイン	鈴木晴子	ODyell
	デザイン	カーデザイン	組合凌哉	capreca
	デザイン	メディアデザイン	恒川静香	学習型体験イベント～博物館 x 謎解き～
	デザイン	メディアデザイン	榎原愛生	あたりまえを考えたい
	デザイン	テキスタイルデザイン	折戸彩香	alum
	デザイン	テキスタイルデザイン	小林来菜	剥落
	デザイン	ライフスタイル	川部羽瑠香	余韻
	デザイン	インダストリアル&セラミックデザイン	折笠舞	陶化紙
	デザイン	インダストリアル&セラミックデザイン	良知恵里花	ケガレをケにする ハレプロダクト
	デザイン	スペースデザイン	大石京汰	KAMKRI HOUSE (体験型ミュージアム)
	デザイン	スペースデザイン	加藤遼大	紡ぐ昭和山道～金華山へ登る榎ヶ瀬商店街～
	デザイン	スペースデザイン	黒木里治	Blind Char
デザイン	メディアコミュニケーション	炭谷倫	TRANSLATION	
デザイン	メディアコミュニケーション	野間隆代里	baked emotions	
デザイン	メタル&ジュエリーデザイン	海をうつつ	海をうつつ	
デザイン	文芸・ライティング	亀井晴花	Dead End Utopia	
芸術教養	リベラルアーツ	澤田 朋恵	栗きんとんの始まりと歩み	
芸術教養	リベラルアーツ	白井 智也	ひきこもり支援における芸術活用について -オンラインでの音楽制作を通じた当事者活動-	
芸術教養	リベラルアーツ	大野 涼加	芸術作品の創作活動によって得られる 自己理解と自己突破 -コア・コミュニティ・ワークショップと インタビュアー分析から考える-	

北名古屋市教育委員会賞	デザイン	スペースデザイン	大石京汰	KAMKRI HOUSE (体験型ミュージアム)
北名古屋市長賞	美術	日本画	大竹しおり	こころの音
最優秀賞	美術	アートクリエイターコース	橋本悦司	moratorium machina

大学院修了制作展 優秀賞	美術研究科 美術専攻 絵画研究 日本画制作	堀 亞舒	鬼退治合戦図
	デザイン研究科 デザイン専攻 3Dデザイン	余馬 宙希	MYMI

名古屋芸術大学 後援会賞	美術	洋画コース	畑中 未羽	あの壘をここでかんじる
	デザイン	メディアコミュニケーションデザイン	安達 真菜	味覚のカタチ
名古屋芸術大学美術 デザイン同窓会賞	デザイン	テキスタイルデザインコース	藤川 裕樹	好きの制限
	大学院	美術研究科 美術専攻	早川 龍之介	マジで助けてくれ
CBCテレビ賞	美術	アートクリエイターコース	松岡七海	ニッチな島のぬめぬめ
	デザイン	インダストリアル&セラミックデザイン	守屋龍成	【バトルホビー】 インセクトカメラ
画荘ヴィーナス賞	美術	日本画	大竹しおり	こころの音
	デザイン	スペースデザイン	加藤遼大	紡ぐ昭和山道～金華山へ登る榎ヶ瀬商店街～
ギャラリーかんしよ賞	美術	洋画	畑中未羽	あの壘をここでかんじる
	美術	アートクリエイター	内藤結菜	ほかんする記憶
後藤紙店賞	デザイン	ヴィジュアルデザイン	大谷美結羽	祖母の煙
	美術	日本画	大竹しおり	こころの音
古川美術館賞	美術	日本画	菅原寧々	春の便り
	美術	洋画	高田陸人	超越した思想
共栄食品 学生食堂賞	美術	洋画	村瀬ひより	さかいめ
	美術	日本画	伊藤歩生	おちゃ、お茶
美濃紙芸賞	美術	日本画	大竹しおり	こころの音
	美術	日本画	岡山七海	藍
MOZO ワンダーシティ賞	美術	日本画	柳次寛	鳥と藤
	美術	日本画	堀 亞舒	鬼退治合戦図
加藤画材 鳥屋書店 東海テレビ	デザイン	インダストリアル&セラミックデザイン	良知恵里花	ケガレをケにする ハレプロダクト
	美術	アートクリエイターコース	伊吹 央河	猪の料理と器
立風賞	デザイン	文芸・ライティングコース	松岡智晴	壽司共々々々
	美術	日本画	田口果歩	癡怒
MOZO ワンダーシティ賞	美術研究科 美術専攻 絵画研究 日本画制作	堀 亞舒	鬼退治合戦図	
	デザイン	メタル&ジュエリーデザイン	池ヶ谷幸奈	飾り
MOZO ワンダーシティ賞	美術	日本画	田口果歩	癡怒
	美術	日本画	伊藤歩生	おちゃ、お茶
MOZO ワンダーシティ賞	デザイン	インダストリアル&セラミックデザイン	折笠舞	陶化紙
	デザイン	ライフスタイルデザイン	西條沙奈美	MY うつ病 LIFE
MOZO ワンダーシティ賞	美術研究科 美術専攻	岡山 瑞穂	「記憶の記憶」	
	デザイン	ヴィジュアルデザイン	大谷美結羽	「祖母の煙」
MOZO ワンダーシティ賞	デザイン	テキスタイルデザイン	西川麻実子	「部屋に飾りたいな」
	デザイン	洋画	玉田大和	漂着するすな
MOZO ワンダーシティ賞	美術	アートクリエイター	川瀬輝澄	櫻守
	デザイン	メディアデザイン	橋本亜瑠麻	わたしのへや
MOZO ワンダーシティ賞	デザイン	メディアデザイン	佐口聖奈	Why to living

プライトン グランプリ	デザイン	ライフスタイルデザイン	川部 羽瑠香	余韻
プライトン 優秀賞	デザイン	インダストリアル&セラミックデザイン	折笠 舞	陶化紙
プライトン 奨励賞	デザイン	イラストレーション	尾上優衣	RODORU
プライトン 佳作	デザイン	スペースデザイン	加藤 遼大	紡ぐ昭和山道～金華山へ登る榎ヶ瀬商店街～
	美術	日本画	伊藤歩生	おちゃ、お茶
プライトン 佳作	デザイン	ヴィジュアルデザイン	松本白葉子	そこにいるもの
	デザイン	イラストレーション	中田壽生	Union
プライトン 佳作	デザイン	カーデザイン	小野田 巨佑	藤コンセプト
	デザイン	テキスタイルデザイン	杉山 春花	往事渺茫
プライトン 佳作	デザイン	文芸・ライティング	松野 美夢	一襲惚れ



27th

## 2023年度 第27回ブライトン大学賞授与式

2024年2月22日(木)、西キャンパスB棟大講義室にて「第51回名古屋芸術大学卒業・修了制作展優秀賞授賞式及び第27回ブライトン大学賞授与式」が開催されました。

本学が学術交流協定を締結するブライトン大学(英国)のアート&メディア学部と本学芸術学部の間においては、両大学間の交流の一環として毎年、本学における卒業・修了制作展の時期に、ブライトン大学から本学の学生に対し、ブライトン大学賞を、ブライトン大学における卒業・修了制作展の時期に本学から本学後援会の協賛を得てブライトン大学の学生に対し名芸賞を、相互に授与しております。

27回目となります今回のブライトン大学賞の選考におきましては、ブライトン大学アート&メディア学部長のティマー・ジェファーズ・マクドナルド(Tamar Jeffers McDonald)先生及び同学部上級講師のジェレミー・ラドヴァン(Jeremy Radvan)先生に審査員をお引き受けいただき、本学からノミネートされた28件の作品の中から、オンライン審査による厳正な選考によって、グランプリ1件、優秀賞1件、奨励賞2件及び佳作6件の、合計10件の受賞作品を選定いただきました。

なお、2020年に発生した新型コロナウイルス



感染症のパンデミック以前は、賞の審査にあたる教員等を相互に派遣し、それぞれ各大学における実地の審査により受賞作品が選定されておりましたが、2020年以降は、インターネットを活用したオンラインによる審査が行われてきております。また、両大学間における交換留学生の派遣・受入れも中断されている状況です。

このような状況の下、現在、国際交流センターにおきましては、ブライトン大学インターナショナルオフィスとの間において、交換留学の再開及び学術交流協定の更新に向け、協議を行っており、早ければ2024年度後半、遅くとも2025年度には、ブライトン大学との間における交換留学の再開が見込まれております。国際交流センターにおきましては、本学とブライトン大学との間の交流の今後より一層の増進に努めてまいります。



賞	領域・コース	氏名	作品名
グランプリ	デザイン領域 ライフスタイルデザインコース	川部 羽瑠香	余想
優秀賞	デザイン領域 インダストリアル&セラミックデザインコース	折笠 舞	陶化紙
奨励賞	デザイン領域 イラストレーションコース	尾上 優衣	IRODORU
	デザイン領域 スペースデザインコース	加藤 遼大	紡ぐ昭和山道 ~ 柳ヶ瀬商店街の金華山登山道への大移設計画
佳作	美術領域 日本画コース	伊藤 歩生	おちゃ・お茶
	デザイン領域 ヴィジュアルデザインコース	松本 日菜子	そこにいるもの
	デザイン領域 イラストレーションコース	中田 爵生	Union
	デザイン領域 カーデザインコース	小野田 巨佑	靡コンセプト
	デザイン領域 テキスタイルデザインコース	杉山 春花	往事渺茫
	デザイン領域 文芸・ライティングコース	松野 美夢	一嗅惚れ



## 名古屋芸術大学賞

名古屋芸術大学と学術交流協定を締結しているブライトン大学アート&メディア学部(英国)の卒業作品展「Brighton Summer Shows '23」において、名古屋芸術大学賞の審査及び授与を行いました。

2020年度以降、毎年、オンラインによる審査を行っており、今年度も同様にオンラインによる審査を行いました。出展された合計203作品のうちから11作品がノミネートされた今年度の審査においては、デザイン領域の後藤規文教授、美術領域の田村友一郎准教授が中心となり、新たな試みとして、各領域の専任教員に

よる投票によって、従来よりも幅広い観点からより精度の高い審査が行われ、グランプリ1作品、優秀賞2作品及び奨励賞3作品の計6つの受賞作品が選定されました。受賞作品の内訳は、下記のとおりです。

なお、これらの受賞作品を含む「Brighton Summer Shows '23」の出展作品は、ウェブ上に公開されており、次のURLからご覧いただくことができます。

<https://exhibitions.brighton.ac.uk/students/exhibition/art-media-ug-23/>

### Nagoya University of the Arts Awards for the University of Brighton Graduate Show 2023

No.	Award / 賞名	Prize / 賞金	Name/ 名前	Course / コース
1	Grand Prix グランプリ	£ 300.00	Alice Coomber	Nominated by Jem Ryan for 3 D Design and Craft
2	Award of excellence 優秀賞	£ 200.00	Hope Vassall	Nominated by Rachel Gillies for Photography
3	Award of excellence 優秀賞	£ 200.00	Simon Tomlinson	Nominated by Phil Tyler for Fine Art Printmaking
4	Incentive award 奨励賞	£ 100.00	Chloe Lewis	Nominated by Lucia King for Moving Image
5	Incentive award 奨励賞	£ 100.00	Sara Paowana	Nominated by Suzanne Hutchinson for Fine Art
6	Incentive award 奨励賞	£ 100.00	Ellie Darby-Prangnell	Nominated by Rachael Taylor for Fashion Communication with Business Studies

## 名古屋芸術大学芸術学部芸術学科音楽領域 第51回卒業演奏会

3月7日(金)名古屋伏見にある電気文化会館ザ・コンサートホールに於いて第51回定期演奏会が開催され、各コースで実施された卒業試験において優秀な成績を上げた学生の中から鍵盤楽器コース(ピアノ)より高石浩雅、石川海龍、鍵盤楽器コース(電子オルガン)より古田愛音、声楽コースより佐藤奈那江、安野風斗、弦管打コースより平岩柘(バスクラリネット)、水野はるか(チューバ)、野

原綾乃(クラリネット)、藤田拓人(ファゴット)、佐藤颯良(チューバ)、浅田若菜(クラリネット)、吹原洋平(チューバ)、ウインドアカデミーコースより松平安奈(サクソフォン)、玉置望羽(サクソフォン)の14名の演奏が披露された。それぞれが4年間の学びの集大成として個性あふれる堂々としたステージを飾り、華やかな定期演奏会となった。

芸術学部 芸術学科長 遠藤宏幸

## 名古屋芸術大学 大学院音楽研究科 第26回大学院修了演奏会

音楽研究科 第26回 修了演奏会が、2024年3月1日に伏見の電気文化会館ザ・コンサートホールで行われました。今年度はピアノ4名、声楽2名、ヴァイオリン1名、電子オルガン1名、計8名が大学

院での研究成果となる演奏を披露しました。当日訪れた約160名の観客は、卓越した演奏に魅了され、演奏後には惜しみない拍手を送っていました。

音楽研究科 教授 依田 嘉明

## 第51回名古屋芸術大学卒業制作展(美術領域・デザイン領域・芸術教養領域)

第51回名古屋芸術大学卒業制作展を2024年2月16日(金)～25日(日)の10日間、本学西キャンパスを会場に開催致しました。本年度はようやくコロナ禍による規制から解放された中での開催でした。期間中は



卒展のアイコン「正門の赤ゲート」

悪天候もありましたが、結果的に入場者数は前年を大きく上回り、過去最高の6389人を記録しまし



2023年度卒展最優秀作品  
「Imoratorium machina」橋本 悦司  
(美術/アートクリエイター)

た。名古屋市中心部の美術館から大学所在地へ卒展を移す判断にあたっては、美術館展示のブランド性、都心からのアクセス、会場準備の負担等、さまざまな不安材料がありました。しかし本年度でキャ



2023年度プライトン大学賞グランプリ「余想」  
川部 羽瑠香 (デザイン/ライフスタイルデザイン)

ンパス開催6回をむかえ、既に数年前から美術館開催時を大きく上回る入場者数に達していることはもちろんですが、キャンパス全域が学生たちの強く、巧みに表現された作品で埋め尽くされる光景を前に、大きな感慨を覚えます。

さて、合計300点あまりの作品が展示された中、学生が掲げるテーマは多岐に及びましたが、そこで強く感じたことがあります。それは従来「当たり前」とされてきた日常、常識、価値観に対する問い直しと、それに対する検証に端を発する作品が数多く見られたことです。芸術の創造的な営みは、時代を映す鏡と言われます。今回出品した学生たちの





卒展企画「ア-oo! ラジオ」LIVE 放送

多くは、入学早々緊急事態宣言が発令され、自由な行動が大きく制限されました。そうしたほぼ強制的な停滞は、一方で身近な世界に対する観察の精度を高める機会となったことが想像され、そこでの気づきが醸成されたテーマを結晶化させたカタチを多くの作品に見ることができました。

関連する企画として、記念講演会では「明和電気」の土佐 信道氏をお迎えし、ナンセンスマシーンと呼ばれる楽器を使ったLIVE演奏に加え、30年にわたる活動の中での製品開発秘話などを熱く語って頂きました。恒例となった卒業生によるトークショー「私の出発点～そういえば原点(ルーツ)は、名芸だよね」では、田中里奈さん(洋画OG)、伊集院一徹さん(ライフスタイルデザインOB)、佐藤



卒展用特設案内表示板

て頂きました。恒例となった卒業生によるトークショー「私の出発点～そういえば原点(ルーツ)は、名芸だよね」では、田中里奈さん(洋画OG)、伊集院一徹さん(ライフスタイルデザインOB)、佐藤

ねじさん(造形実験コース/現・先端メディア表現OB)に登壇頂きました。その他、音楽領域学生によるミニコンサート「NUA ART SHOP」、卒展ラジオとして定着した「ア-oo!ラジオ」、昨年からはスタートした「チャリティーオー

クション」、教育学部の協力による「こどもランド」等の企画も盛りだくさんに催され、来場者のみなさんにちょっと一息つける時間が提供されました。

卒展は、本年度も多くの皆さま方のご協力により無事盛況の内に閉会致しました。本展に出品した卒業生をはじめ、在学生、教職員、後援会、同窓会、賞の授与にご賛同頂いた関係企業の皆さま方に対して、改めて深く御礼申し上げます。卒展は、名芸大の教育研究の成果発信の中核事業に位置付けられます。次年度からも本展のさらなる充実・発展に努めたいと構想しておりますので、引き続きよろしくご支援、ご協力をお願い申し上げます。

芸術学部長 萩原 周



「一嗅惚れ」松野 美夢  
(デザイン/文芸・ライティング)  
\*展示の一部

## 第 28 回名古屋芸術大学大学院 修了制作展 (美術研究科)

美術研究科20名は修了制作展に先立ち2月8日に実施された大学院 論文等審査試験に臨み、自分の研究成果として制作された作品を展示し、研究科担当教員や学生たちを前に発表した。それぞれの研究成果について熱心に語ってくれた。コロナ禍でのスタートではあったが、この2年間自分の研

究テーマと向き合い、研究と制作の日々を過ごした自己研鑽の結果はとても充実したものであ



楊アジヨ「鬼退治合戦圖」修了制作展  
優秀賞 (美術研究科 絵画/日本画制作)

た。その後彼らの力作は、2月16日から2月25日までの10日間にわたって行われた「大学院研究科修了制作展」(学部卒業制作展と合同)において出展された。ADセンターを中心に自分たちが2年間使用したアトリエや学食などの学内施設を使用したその研究内容は、絵画、立体、陶芸、映像、アニメーション、インスタレーションなど多岐に渡り、バラエ



修了制作展 ADセンター展示風景



于顔碩「夢と目覚め」  
(美術研究科  
同時代表現研究)

ティに富んだ数々の作品はオリジナリティに溢れ、非常に魅力的であった。

卒業制作展、修了制作展が本学西キャンパス内での開催になってから6年目となった。毎年の恒例のように楽しんでいただいている方も多くなり、美術関係者、美術ファンだけでなく、

展示会マップを手に大学内を一日かけて鑑賞する家族連れや、スタンプラリーを楽しみながらキャンパス内を回る子供たち、体験型の作品に並ぶ人々など、通常の美術館の展示会とは一味違う特別な環境での展示となり、作品をじっくりとご覧いただき楽しませている様子をあちこちで見ることができた。2年間の集大成といふべき彼らの作品に込めたメッセージや、情熱を注いだ創作へのエネルギーを、ご覧になりにお越

しくくださった皆さんはきっと感じ取っていただけたと思う。会場では作品を前に直接院生たちに作品について質問する様子も見られ、

ご覧いただいた方から多くの感想やエールをいただいた。このような修了制作展の貴重な経験は卒業後の創作活動に大いに役立つはずである。それぞれの夢に向かっていく彼らが今後どのように活躍の場を広げていくのか非常に楽しみであり、これからも見守っていきたい。



張群秋「グラフィティスケート」  
(美術研究科 同時代表現研究)



関山瑞季「記憶の記録」  
(美術研究科 同時代表現研究)

美術研究科長 松岡 徹

## 第28回名古屋芸術大学大学院 修了制作展 (デザイン研究科)

学内で行われている卒業制作展と同時開催された大学院修了制作展にデザイン研究科生17名が出品した。ヴィジュアルデザイン研究の陳莉敏さんは、植物文様のリ・デザインを実際に使用されるシーンの再現とともに提案し、李シイさんは体験的な読書を折本の形式で、李銘浩さんは痕跡による人とモノの関係の表現をインスタレーションとして提示した。劉天宇さんは故宮博物館の文化財の移動をインフォグラフィックで、黄卓睿さんは日常生活における親密さのカタチを熱がどのように残るかに焦点を当てた作品として制作した。

メディアデザイン研究の曠代熹さんは幻想生物を手書きアニメーションとして制作、付詩画さんは映画における構図の研究をドキュメンタリー映像の中で表現し、韓非凡さんは映像制作のノウハウをアプリの形式で、謝ユさんは地域の魅力を独特な写真表現で、李雨昂さんは心を打たれた瞬間を写真として切り取るカタチで表現した。ライフスタイルデザイン研究の小林恒平さんは私的な罪悪感を考えてもらう契機としてインスタレーションの形式で、川原明さ



さんは草木染めにおけるサスティナブルテキスタイルをイベントに組み込んだ取り組みとして、ZHUYAOXINさんはフィジエットイを素材や人類の動物性から研究し提示した。3Dデザイン研究の田佳音さんはコミュニケーションをテーマにしたオフィス家具の提案を、李楊さんは楽しみながら使える動物の形をした木製のマッサージ玩具を、前野瑞希さんは徳島県発の休息と体験ができるトレーラーを提案し、余馬宙帝さんは折りにより自由に変形可能な壁かけ家具をリユース素材を使ってデザインした。



名古屋芸大の院生としての2年間を、充実した工房などの施設をフルに活用するなど、彼ら自身がどのようなことを感じ、体験し、研鑽したかという成果を、作品を通して自らのメッセージを社会に問うかたちで、この修了展で提示することができた展示会であった。それぞれの今後の活躍を期待している。

デザイン研究科長 駒井 貞治

# 皆さん受賞おめでとうございます

2023年度の本学在学学生(学部及び大学院生)や卒業生の展覧会や各種コンクール等における受賞結果を報告します。学外のイベントでの受賞者については、本人及び教員を通じて広報部に報告があった内容を掲載しています。

## 芸術学部音楽領域・大学院音楽研究科

日付	イベント名	主催	順位、受賞など	楽器など	学年・卒業期	氏名
<b>2023年</b>						
第月第日	第13回岐阜国際音楽祭	岐阜国際音楽祭実行委員会	ピアノ部門 一般I第3位	ピアノ	大学院 音楽研究科 器楽専攻ピアノ演奏研究2年	川添由梨香
5月4日	第13回岐阜国際音楽祭	岐阜国際音楽祭実行委員会	審査員特別賞	声楽	音楽領域ディプロマ受講生1年	武田紗那恵
			声楽部門 一般I第2位	声楽	音楽領域ディプロマ受講生1年	武田紗那恵
			声楽部門 大学生第3位	声楽	音楽領域 声楽コース4年	佐藤奈那江
6月18日	第18回中部ショパン ピアノコンクール	日本ショパン協会中部支部	大学生 一般部門銅賞	ピアノ	音楽学部 演奏学科 ピアノコース2013年度 学部卒業生	坪内 晴菜 (旧姓 水越)
7月23日	第24回大阪国際音楽コンクール	大阪国際音楽振興会	木管楽器部門 Age-U入選	クラリネット	音楽領域 弦管打コース2年	近藤 虹乃
			木管楽器部門 Age-U入選	クラリネット	音楽領域 ウインドアカデミーコース 2年	劉 凱馳
8月18日	第19回アジア国際音楽コンクール	音楽文化促進団体 日本音楽審議会	大学生ピアノ部門 優秀賞	ピアノ	音楽領域プロフェッショナル アーティストコース1年	アウヤン ウェイナ
9月21日	第45回全日本ジュニアクラシック 音楽コンクール	一般社団法人東京国際芸術協会	大学生部門 第4位	ピアノ	音楽領域 鍵盤楽器コース1年	石田 京香
9月24日	第2回ドビュッシー 国際ピアノコンクール	アソシエーション・ドビュッシー・ オー・ジャポン	G部門 第2位	ピアノ	音楽領域プロフェッショナル アーティストコース1年	アウヤン ウェイナ
9月30日	パーゼル国際ピアノコンクール2023	一般社団法人 Supraleitung Methode Japan	E部門 第2位	ピアノ	大学院 音楽研究科 器楽専攻 ピアノ演奏研究1年	秋山 紗穂
10月6日	第24回大阪国際音楽コンクール	大阪国際音楽振興会	ピアノ部門 (Age-U) エスポアール賞	ピアノ	音楽領域 音楽総合コース 2022年度学部卒業生	瀧澤 俊
10月8日	第17回ベートン音楽コンクール	ベートン音楽協会	大学・院A 地区本選 優秀賞	ピアノ	大学院 音楽研究科 器楽専攻 ピアノ演奏研究1年	羽田 結奈
10月21日	第74回福井県音楽コンクール	福井県音楽コンクール 運営委員会事務局	大学一般の部 文化協議会賞	声楽	大学院 音楽研究科 声楽専攻 声楽研究1年	堀江 七海
11月11日	第25回ショパン国際 ピアノコンクール in ASIA	ショパン国際ピアノコンクール in ASIA 組織委員会	大学生部門 地区大会 銀賞	ピアノ	大学院 音楽研究科 器楽専攻 ピアノ演奏研究1年	羽田 結奈
11月19日	第9回アマービレ 電子オルガンコンテスト	アマービレ電子オルガン コンテスト実行委員会	高校大学一般 課題曲コース 金賞	電子オルガン	音楽領域 鍵盤楽器コース3年	田中 ゆき
			高校大学一般 自由曲コース 金賞	電子オルガン	音楽領域 鍵盤楽器コース3年	田中 ゆき
11月23日	第26回「長江杯」 国際音楽コンクール	中国音楽理事会	声楽部門・一般の部 A第3位	声楽	音楽領域ディプロマ受講生1年	武田紗那恵
11月26日	第10回東京 国際ピアノコンクール	一般社団法人日東京国際芸術協会	大学1年生の部 第2位	ピアノ	音楽領域プロフェッショナル アーティストコース1年	楠原 未来
12月5日	第33回日本クラシック 音楽コンクール	一般社団法人日本 クラシック音楽協会	クラリネット部門 本選優秀賞	クラリネット	音楽領域 弦管打コース3年	北野 咲弥
			入選	クラリネット	音楽領域 弦管打コース1年	小森 稜大
12月6日	第9回学生の制作する 音楽録音作品コンテスト	一般社団法人 日本オーディオ協会	優秀企画制作賞	—	音楽領域 音楽総合コース3年	中村 颯汰
12月13日	第33回日本クラシック 音楽コンクール全国大会	一般社団法人 日本クラシック音楽協会	声楽部門 一般女子の部 第5位	声楽	音楽領域ディプロマ受講生1年	武田紗那恵
12月23日	第14回ヨーロッパ国際ピアノコン クール in Japan 全国大会	ヨーロッパ・ピアノ協会	大学A部門 ディプロマ賞	ピアノ	音楽領域プロフェッショナル アーティストコース1年	アウヤン ウェイナ
<b>2024年</b>						
1月6日	第77回全日本学生音楽コンクール 名古屋大会	毎日新聞社	声楽部門 大学の部2位	声楽	音楽領域ディプロマ受講生1年	武田紗那恵
1月6日	第29回KOBE国際音楽コンクール	KOBE国際音楽コンクール 実行委員会	ピアノ/C部門 奨励賞	ピアノ	音楽領域プロフェッショナル アーティストコース1年	アウヤン ウェイナ
1月20日	第14回東京ピアノコンクール	東京ピアノコンクール審査委員会	2台ピアノ部門 第3位	ピアノ	音楽領域 音楽総合コース2年 音楽領域 音楽総合コース2年	高村軼友那 花島 未桜



## 芸術学部美術領域・大学院美術研究科

日付	イベント名	主催	順位、受賞など	学年・卒業期	コース	氏名
<b>2023年</b>						
8月7日	ART AWARD TOKYO MARUNOUCHI 2023	アートアワードトーキョー 丸の内2023実行委員会	グランプリ	2020年3月卒	美術学部美術学科 洋画コース	浅野 克海
			審査員 木村絵理子賞	2023年3月修了	大学院 美術研究科 美術専攻 同時代表現研究	宇留野 圭
12月12日 ～ 12月17日	第18回 CBC翔け！ 二十歳の記憶展	中部日本放送株式会社 (CBCテレビ)	CBC賞	4年	美術領域 アートクリエイターコース	橋本 悦司
			中日新聞社賞	4年	美術領域 日本画コース	田口 果歩
			愛知県教育委員会賞	4年	美術領域 アートクリエイターコース	山口 巧
			名古屋市教育委員会賞	1年	大学院 美術研究科 美術専攻 絵画研究 日本画制作	新井 謙成
12月13日 ～ 12月25日	Idemitsu Art Award展 2023	Idemitsu Art Award事務局、 出光興産株式会社	オーディエンス賞	2012年3月修了	大学院 美術研究科 美術専攻 絵画研究 日本画制作	中野ともよ
			江上ゆか 審査員賞	2012年3月修了	大学院 美術研究科 美術専攻 絵画研究 日本画制作	中野ともよ
<b>2024年</b>						
1月24日 ～ 2月12日	第10回日展名古屋展	公益社団法人日展中部日展会	愛知県知事賞	4年	美術領域 日本画コース	大竹しおり
			CBC賞	4年	美術領域 日本画コース	大竹しおり

## 芸術学部デザイン領域・大学院デザイン研究科

日付	イベント名	主催	順位、受賞など	学年・卒業期	コース	氏名
<b>2023年</b>						
7月13日	COPPA CENTRO GIAPPONE 2023 (大会ポスター)	コッパ・チェントロ・ ジャポネ実行委員会	最優秀賞	3年	デザイン領域 ヴィジュアルデザインコース	黒木 里帆
			入賞	3年	デザイン領域 ヴィジュアルデザインコース	池田 琴葉
			入賞	3年	デザイン領域 ヴィジュアルデザインコース	真田 遥佳
10月10日	JAGDA国際学生ポスター アワード 2023	公益社団法人日本 グラフィックデザイン協会	マカオポスター デザイン協会賞	1年	大学院 デザイン研究科 デザイン専攻 ヴィジュアルデザイン	高村村鞆凡
			資生堂 クリエイティブ賞	3年	デザイン領域 ヴィジュアルデザインコース	吉田 美結
			入選	3年	デザイン領域 ヴィジュアルデザインコース	黒木 里帆
10月21日	第30回美濃和紙 あかりアート展	美濃和紙あかりアート展 実行委員会、 一般社団法人美濃市観光協会	ライトアップ賞 (堀木エリ子賞)	2年	デザイン領域 スペースデザインコース	藤居 航
			入選	2年	デザイン領域 スペースデザインコース	西井 涼馬
10月28日 ～ 1月21日	2023年度 日本インテリア学会 第30回 卒業作品展JASIS	日本インテリア学会	最優秀作品賞	2023年3月卒	デザイン領域 スペースデザインコース	高岡 卓史
11月9日	工芸都市高岡クラフト コンペティション	工芸都市高岡クラフトコンペ 実行委員会	入選	2023年3月卒	デザイン領域 スペースデザインコース	高岡 卓史

## 国際交流事業について

北名古屋市子ども芸術教室（美術）・（音楽）  
2023 年度交換留学生作品展 前期・後期

2023 年度は、5 月 8 日の新型コロナウイルス感染症の 5 類感染症移行により日本国内における同感染症の取扱いが大幅に緩和され、それまで混乱や支障が続いていた私費及び国費留学生の受入れ並びに本学と外国大学等との間において締結する学術交流協定に基づく外国大学等から本学への交換留学生の受入れ及び本学から外国大学等への交換留学生（本学学生）の派遣がようやく正常化した 1 年でした。

2020 年度以降、本学で受け入れる外国人留学生の数は増加の一途を辿っており、2023 年度において本学の学部、大学院及び留学生別科に在籍する私費及び国費留学生数は、193 名（2024 年 1 月 31 日時点）に上ります。これに加え、同年度前期においては、デトモルト音楽大学（ドイツ）から 1 名、ファルマス大学（英国）から 1 名、サンテティエンヌ高等美術デザイン学校（フランス）から 2 名の計 4 名の交換留学生を、また、同年度後期においては、ブレーメン芸術大学から 1 名、UCA 芸術大学（英国）から 1 名、ディジョン国立高等美術学校（フランス）から 1 名の計 3 名の交換留学生を受け入れました。

また、同年度前期においては、デトモルト音楽大学（ドイツ）に 1 名、ブレーメン芸術大学（ドイツ）に 1 名、計 2 名の交換留学生を、同年度後期においては、デトモルト音楽大学（ドイツ）に 1 名、サンテティエンヌ高等美術デザイン学校（フランス）に 1 名、ミラノ新美術学院（イタリア）に 1 名の計 3 名を本学から派遣しました。

2023 年度における当センターの主な実施事業としては、ブライトン大学卒業制作展名古屋芸術大学賞（6 月）、前期受入交換留学生展（7 月）、北名古屋市国際交流協会子ども芸術教室（美術）（7 月）、後期受入交換留学生展（11 月）、北名古屋市国際交流協会子ども芸術教室（音楽）（12 月）、名古屋芸術大学卒業制作展ブライトン大学賞（2 月）等が挙げられます。

また、同年度から、受入外国人留学生の利便性の向上及び在籍管理の徹底及び効率化を図るための新たな取り組みとして、在籍外国人留学生

の入管法上の在留手続について、名古屋出入国在留管理局から大学職員による申請取次（申請人である外国人に代わって所属機関である大学の職員が各種在留申請を入管に提出することができる制度）の承認及び在留申請オンラインシステムの利用承認を受け、外国人留学生の在留期間更新許可申請（及び希望者については資格外活動許可申請の同時申請）のオンライン申請の運用を開始しました。在留期間の更新が必要な外国人留学生は、従来、入管の窓口に出頭して書面による本人申請をしなければならなかったものが、この制度を利用することにより、オンラインで大学に必要な情報を送信するとともに入管に提出が必要な資料を大学窓口で提出すれば、原則として、留学生本人が入管の窓口に出頭しなくても在留期間更新許可を受けることができるようになりました。在留期間更新許可申請と同時に資格外活動許可申請を希望する留学生については、許可に伴い新たに交付される在留カードの受領手続のみ本人が入管の窓口に出頭する必要がありましたが、入管の制度改正により 2024 年 1 月 1 日からは在留期間更新許可申請と同時に資格外活動許可申請をする場合にも大学経由で在留カードの受領ができるようになったことから、今後、更に留学生の利便性が向上することが期待されます。

なお、2023 年度中に在留期間更新許可を受けた 62 名の留学生のうち、45 名（うち 31 名が資格外活動許可申請を同時申請）が大学によるオンライン申請を利用しました。

2023 年 3 月 3 月 17 日の政府の教育未来創造会議において、政府は、2033 年までに外国人留学生 40 万人を受け入れ、日本人留学生 50 万人を送り出す目標を示しています。

国際交流センターとしては、引き続き増加が見込まれる外国人留学生の利便性の向上及び在籍管理の徹底に努めるとともに、国際学術交流の発展に資するため、これらの留学生と日本人学生との交流並びに学術交流協定を締結する外国大学等との間における学術交流及び交換留学（派遣及び受入れ）の促進に努めてまいります。

### 北名古屋市子ども芸術教室（美術）

2023年7月8日（土）、本学西キャンパスにおいて、「北名古屋市子ども芸術教室（音楽）」を開催し



ました。このイベントは、毎年、同事業を主催する北名古屋市国際交流協会からの依頼を受けて、北名古屋市内の小学生が留学生との交流や芸術（美術）を体験することのできる機会として実施されてきているものです。

2023年度の本事業においては、40名の小学生及びその保護者等並びに本学に在籍する後期交換留学生、私費留学生及び芸術学部音楽領域、美術領域、デザイン領域の日本人学生が参

加しました。

参加した小学生は、留学



生を含む本学学生の指導により、絵画体験を行い、各グループに少なくとも1名の留学生を割り振った複数のグループに分かれ、西キャンパス内の各所でそれぞれモデルとして選んだものを描いて、昼食を挟んで色付けし、最後に、それぞれのグループに分かれて作品発表と意見交換を行いました。



### 北名古屋市子ども芸術教室（音楽）

2023年12月2日（土）、本学東キャンパスにおいて、「北名古屋市子ども芸術教室（音楽）」を開催しました。このイベントは、毎年、同事業を主催する北名古屋市国際交流協会からの依頼を受けて、北名古屋市内の小学生が留学生との交流や芸術（音楽）を体験することのできる機会として実施されてきているものです。



2023年度の本事業においては、15名の小学生及

びその保護者等並びに本学に在籍する後期交換留学生、私費留学生及び芸術学部音楽領域及び教育学部の日本人学生が参加しました。



参加した小学生は、留学生を含む本学学生及び国際交流センター職員の指導により、トーンチャームの合奏体験を行い「そりすべり」、「大きな栗の木の下で」、「富士の山」など馴染みのある楽曲を練習した上で、最後に、参加された保護者等の前でトーンチャームの演奏を披露しました。



### 2023年度前期交換留学生作品展

2023年7月7日（金）から12日（水）まで、西キャンパス Art&Design Center West において、「2023年度前期交換留学生作品展」を開催しました。



今期は、デトモルト音楽大学（ドイツ）から1名、ファルマス大学（英国）から1名、サン

ティエンヌ高等美術デザイン学校（フランス）から2名の計4名の交換留学生を受け入れており、同作品展では、これらのうちサンティエンヌ高等美術デザイン学校（フランス）からの2名の留学生がその作品を披露しました。



### 2023年度後期交換留学生作品展

2023年11月24日（金）から29日（水）まで、西キャンパス Art&Design Center



West において、「2023年度後期交換留学生作品展」を開催しました。今期は、プレーメ

ン芸術大学から1名、UCA芸術大学（英国）から1名、ディジョン国立高



等美術学校（フランス）から1名の計3名の交換留学生を受け入れており、同作品展では、これらのうちUCA芸術大学（英国）及びディジョン国立高等美術学校（フランス）からの2名の留学生がその作品を披露しました。



## 実施報告

# 後援会補助公開講座

## 芸術学部芸術学科音楽領域

### 声優アクティングコース2023卒業公演「おにぎり」

2023年12月3日(日)、声優アクティングコースの卒業公演を開催致しました。

この公演は本コース学生が卒業を前に一般のお客様たちの前でこれまでに培ってきた力を披露する演劇公演です。当日は東キャンパス3号館ホールで4年生30名一人も欠ける事なく公演を行うことができました。

今回の公演は「おにぎり」と名うって、4年間の集大成として4つの具(オムニバス作品)を演じました。声優アクティングコースは1年生から4年生まで様々な授業があります。殺陣・アクションの授業や朗読、歌唱など。それらの授業で培った力を遺憾なく発揮するための4つのオリジナル作品です。

具1「さよなら夏」は大学生が高校時代の仲間たちと久しぶりに集まり海で大騒ぎする、明るく切ない物語

具2「SEKISYO～関所～」は殺陣から始まる近未来(西暦2043年・江戸20年)箱根の関所越えの物語

具3「みりりんにあいたくて」は地下アイドルファンのオタクたちが繰り広げるギャグ作品

具4「レター」は幼馴染の二人の手紙のやり取りをとおしてお互い成長していくピュアラブストーリーの朗読劇

具5「塩むすび」はカーテンコールとして全員での歌

と、殺陣があったり歌があったり朗読劇があったり、内容もギャグがあったりラブストーリーがあったりサスペンスがあったり。

彼らの4年間をギュッと詰め込んだ1時間45分

の公演で、最後のカーテンコールは感動の涙に包まれました。

カーテンコールが終わっても会場の拍手は鳴り止まず、演劇公演では異例のアンコールで3回カーテンコールを行う程大感動な公演でした。

卒業後、彼らはそれぞれの世界へ旅立って行きます。声優を目指すもの、舞台俳優を目指すもの、歌に進むもの、進む世界はそれぞれ違って、この公演で魅せた絆を胸に誇りをもって次の世界で邁進してくれることでしょう。今回の公演で成長した彼らの今後の成長が楽しみです。

音楽領域 准教授 声優アクティングコース  
ハマノカズゾウ



## 芸術学部芸術学科舞台芸術領域

舞台芸術領域は、2021年4月に開設されました。舞台芸術作品を制作する人材を育成することを目的として、舞台プロデュースコース、演出空間コース、(音響・照明)、舞台美術コースの3コースを包含しています。しかし、3つにコースに分かれているものの、卒業時まで3コースが協働で学ぶという特徴を有しています。各コースの専門性を深めつつ、常に他コースの専門性にも関わることが必要なことから、舞台芸術領域では1年生に「舞台ファンデーション」として全コースの専門分野の導入を学んだ上で、学生本人の希望や特性に鑑みて、2年次への進級の際にコースを選択する仕組みでカリキュラムが構成されています。2023年4月は、一期生が3年生となり、2年生に進級した二期生がコースに分かれ、新しく三期生を迎え、新年度がスタートしました。三学年の学生数は120名を超え、「領域」としての規模が徐々に見え始めてきました。

次年度はいよいよ1年生から4年生までが揃う、いわゆる「完成年度」となります。新入生を迎えます。新しい専任教員や非常勤講師、助手も迎えます。教職員スタッフ一同、全力で領域運営に力を注いで参りますので、どうぞ今後ともご支援のほど、よろしくお願い申し上げます。

以下、後援会補助によって開催されたものをご紹介します。

(主任 梶田美香)

### ■オープンキャンパス

(2023年7月22日 東キャンパス)

特別客員教授の先生方(金井勇一郎先生・丹

羽康雄先生・市来邦比古先生)をお迎えして、世界を舞台に活躍されているお話や、どのようにそのキャリアを築いてこられたのか、など、興味深いお話をしていただきました。その後、8号館スタジオツアーを学生の誘導と説明で開催し、午後には専門分野に分かれて、高校生向けにワークショップを開催しました。全ての企画を舞台プロデュースコース3年生が行い、その企画に舞台美術コースと演出空間コースの学生がサポート参加して実現しました。





**後援会補助公開講座**

■家族のための朗読コンサート「おやゆび姫」  
(2024年3月8・9日 東キャンパス8号館スタジオ)  
昨年の「ブレーメンの音楽隊」に続き、家族



のための朗読コンサートと、子どもたちのためのワークショップを開催しました。1年生から3年生までが制作に参加し、異学年での作品制作の機会にもなりました。



**芸術学部芸術学科芸術教養領域**

芸術教養領域 洞窟探検家・吉田勝次氏講演会  
2017(H29)年の本領域のスタートと共に始まった公開講座「リベラルアーツ×X(リベラルアーツかけるエックス)」も、後援会の助成のお陰様で7年目を迎えることができました。毎年の貴会の助成に深謝申し上げます。



講演される吉田勝次さん

今回は暑さの残る10月7日の午後、本学西キャンパスで洞窟探検家の吉田勝次さんをお招きし、「リベラルアーツ×生きる」と題して講演して頂きました。吉田勝次さんはクレージージャーニーや、マツコ・デラックスさんのテレビ番組にも多数出演されてきました。今回の講演は4月、芸術教養の学生対象の「教養と文化」の授業の一つとして開かれた講演会の続篇として開かれました。10月においても少し暑さが残っていたこの日、学外からもお客さんがいらっしやり、賑やかに楽しく、質問も相次ぎました。

大阪生まれ、愛知県育ちの吉田さんは洞窟探



質問者に気さくに応じる吉田さん

検に魅了され、日本国内のみならず、世界各地にある「誰も入ったことのない未知の洞窟」に多数入られています。地図も太陽も無い洞窟に、何日もほとんど食事を摂らず、どこにどれだけ深い縦穴があるか分からない暗闇の中を進み、時には酸素ボンベで水没した穴に入るといふ、文字通りの命がけの探検を続けてこられました。



熱心に聞き入る学生

吉田さんは、テレビの娯楽番組だけではなく、



## 後援会補助公開講座



講演される吉田さん

研究者との共著論文も出されています。洞窟をどのように見つけ、その入口にどのように到達するのか。洞窟の中で遭遇した様々なこと。お話はまさに「幅広い教養」そのものでした。そして、今の苦しい時代を生きる力を学生や私たち教職員に与えてくださいました。

吉田さんは現在、一宮市に洞窟探検を体験できる施設を建設中です。それができたら、是非私も洞窟を疑似体験したいと思っています。

芸術教養領域 領域主任 茶谷 薫

学術的に大変貴重な発見にも多数関わられ、研

## 教育学部・人間発達学部

「保育・教育現場における子どもの発達障碍の見方・考え方・つき合い方」

講師 宮地 泰士氏  
(名古屋市西部地域療育センター)

今年度の特別公開講座は、昨年度に引き続き感染予防対策を慎重に行いながら、名古屋芸術大学アーツスクエア大ホールで行いました。特別公開講座は、地域の保育所、幼稚園などの職員や保育・幼児教育関係者、本学の学生・教職員を対象として年1回開催しています。今回は、名古屋市西部地域療育センターの宮地泰士氏をお招きし、「保育・教育現場における子どもの発達障碍の見方・考え方・つき合い方」というタイトルで、発達障碍を持つ子どもたちとの



かわり方について、話していただきました。

近年、日本における発達障碍を持つ子やその可能性がある子の数は増加傾向にあり、保育や教育現場において発達障碍についての理解は大変重要になってきています。ひと昔前に比べて最近では発達障碍に関する情報や知識も増え、支援も広がってきていると思います。新しい知見も交えて発達障碍についての理解と子育て・子ども指導のあり方をお話していただきました。現在、障碍というものは、「個人



の特性と環境との不調和により社会的障壁をきたしている状態」のことをいうそうです。つまり、障碍というのは、個人の中に存在するものではなくて、その個人と環境との間に存在するという風に考えられていることとなります。その意味で、障碍支援というものは、この両者の調和を保つことといえるわけです。そのためには、その人を取り巻く環境がその人の方に歩み寄る、その人の特性にあったものになるように環境の方が変わっていくことが大事であると考えられているという話がありました。

具体的にさまざまな発達障碍の特徴や対応のポ



イントを、例も交えてお話していただくことができました。この講演会が、今を精一杯生きている発達障碍を持つ子達への理解と、温かいまなざしが増えていくきっかけになれば幸いです。

教育学部長 溝口 哲夫

# TOPICS



## ■ 音楽領域

### 【サウンドメディア・コンポジションコース】深田晃氏、峯岸良行氏による公開講座 「3D Audio Workshop 2023」を開催

サウンドメディア・コンポジションコースでは、2023年12月2日(土) 東キャンパス 2号館大アンサンブル室にて、非常勤講師 深田晃氏、峯岸良行氏による公開講座「3D Audio Workshop 2023」を開催しました。これまで、映画作品や劇場で採用されていた立体音響技術が発達し、近年ではApple Music、Amazon Musicなどではドルビーアトモス、またAmazon Musicでは360Reality Audioフォーマットの3D Audio配信が始まっています。

今回の公開講座では、BENNIE Kなどの作曲、プロデュース、Little Glee Monsterなどミックスエンジニアとして多くのアーティストの作品に携わり、多くの3D Audio作品の制作を行ってきた峯岸良行氏、ドラマやドキュメンタリー、映画のサウンドトラックや番組テーマ音楽、N響やサイトウキネンオーケストラなどのレコーディングに携わり、独自サラウンド収録方法である「Fukada Tree」の考案者として広く知られる深田晃氏といった3D Audioの第一線で活躍する両氏に制作のノウハウを具体的に講義していただきました。学生が制作した3D Audio作品を試聴したことで、今後のオーディオ表現について体験して考える盛りだくさんの内容となりました。



## ■ 舞台芸術領域

### 【東海テレビ】テレビ局スタジオの建て込みを見学

2023年10月28日(土)、29日(日)に名古屋市中心部に位置する久屋大通公園で開催されたイベント「東海テレビ開局65周年 ふるさとイチチー祭 グルメパーク」開催にあたり、舞台芸術領域を中心とした学生たちがステージスタッフとして参加し、オンエアされる番組の手伝いをさせていただきました。ステージが終了した午後、全員で東海テレビのスタジオへ移動し、東海テレビ 美術部 水野亮さんの案内でセットの建て込みを見学。日頃2つのスタジオを使われ、1つは平日に放送されるローカル情報番組「スイッチ!」のセットを常設、もう1つは番組に合わせて組み替えるとのこと。この日はちょうど翌日のお昼に放送される国分太一さんがMCを務めるローカル情報番組「タイチサン!」のセットを組んでいるところでした。組み立てる様子に加え、セットをデザインした美術スタッフに直接デザインコンセプトを伺うなど貴重な機会となりました。

また、セットのほか数々の大道具・小道具が収納されている倉庫も見学させていただきました。放送で使われるありとあらゆるものが置かれた倉庫は、まるで「おもちゃ箱」のようでいつまでも見ていて飽きない楽しさがありました。舞台美術コース志望の学生からは「イベントスタッフの仕事はいい経験になったし、背景や倉庫も見られて来て良かったです」と笑顔で話し、大いに刺激を受けた様子でした。





## TOPICS PICK UP!

## ■ 美術領域

## 【セラミックタイル美濃2024】タイルで彩るプロジェクト始動

2024年3月12日(火)～15日(金)の4日間にわたり、東京ビッグサイトで開催された「建築・建材展2024」内の多治見市美濃焼タイル振興協会様のブース造作に参加しました。本件はブース運営・施工を請け負う竹田印刷株式会社との産学連携事業であり、これを担当したのは、美術領域コミュニケーションアートコースと工芸コースの学生です。

4日間にわたり会場でブースの壁面をタイルで装飾していくというライブパフォーマンスをするにあたり、準備として2023年12月27日(水)に多治見市モザイクタイルミュージアムと長江陶業株式会社にてタイルとタイルの仕事の見学に行き、更に今年1月には作品プランを練り、いくつかの作品をシートにする作業やタイル張りの練習なども行いました。学生にとっては、今後の制作の可能性が広がるだけでなく、産業界と美術のつながりを肌で体験できた貴重な機会となったようでした。



## ■ デザイン領域

## 【先端メディア表現コース】名古屋市科学館「メディアデザインの力で“科学の魅力”を再発見!」で作品展示

先端メディア表現コースはナディアパーク協力の元、名古屋市科学館とコラボレーション。「メディアデザインの力で“科学の魅力”を再発見!」と題し、2023年9月30日(土)、10月1日(日)の2日間、学生が制作したメディアデザイン作品を名古屋市科学館 生命館地下2階 サイエンスホールにて展示、作品の一部が、2023年10月10日(火)～15日(日)まで、ナディアパーク2階 アトリウムでも展示されました。

このイベントは、作品を通して来場者に科学の魅力を再発見してもらおうというもの。PCを使ったプログラミングの作品、立体パズルなどの立体作品、進化や科学の不思議を扱った映像作品など、様々な作品が展示され、来場者は実際に動かして遊ぶことができます。名古屋市科学館の展示日には、多く子どもたちで賑わいました。来場者に作品を説明したり、遊んでもらうなど、実際にコミュニケーションすることも学生たちにとっては初めてのことで、笑顔で子どもたちに対応する学生の姿が印象的でした。



## ■ 芸術教養領域

## 【ナゴヤキネマ・ノイ】の立ち上げに協力!

芸術教養領域の学生と教員は、創設41年を経て昨年7月に閉館した映画館「名古屋シネマテーク」が新しいミニシアター「ナゴヤキネマ・ノイ」に生まれ変わるプロジェクトを支援しています。開館に先立ってクラウドファンディングがスタート。本学芸術教養領域リベラルアーツコースで「ビジュアルリテラシー」を担当する谷野先生と学生の鈴木美砂さんが、劇場のロゴやクラウドファンディングのチラシデザインを手がけました。

今後も新しい劇場の看板制作やクラウドファンディングの返礼品デザインなど、小規模な映画館立ち上げプロジェクトに積極的に協力していきたいと考えています。





TOPICS PICK UP!

■ 教育学部

【子どもと音楽ゼミ】大治小学校で先輩訪問&授業見学

2023年11月30日(木)愛知県西部に位置する海部郡の大治町立大治小学校に星野英五先生のゼミ生7名が訪問し、現在教育学部の同窓会副会長でいらっしゃる加藤英介教諭の授業を見学させていただきました。見学させていただいた授業は6年生の算数で、大学の先輩となる加藤先生の授業は、「簡単に分かってしまえば算数の授業の先生なんかいないよ。」というような優しい言葉がけに代表されるように、一人ひとりの児童を大切にする指導を心掛け、児童の発言をつなぐ問い返しをされたり、大型画面と板書を有効的に使い、デジタルとアナログを上手に使い分ける授業を行っていました。先輩である加藤先生から刺激を受け、今年このゼミから愛知県小学校教諭合格者2名、輩出することができました。



■ 留学生別科

【校外学習】日本の伝統を学びに「京都」へ

日本の伝統理解を深めるために最もふさわしい場所といえば「京都」が挙げられます。かつては「都」がおかれ、さまざまな日本の史実が生み出されたこの地を一目見て、日本の理解をより深めたいという別科生たちの意向に答え、2023年11月25日(土)に京都へ出かけました。京都市内の有名ホテルで美味しい昼ご飯を食べた後、「清水寺」や「金閣寺」を巡りました。季節柄、「紅葉」も楽しむことができ、別科生の笑顔溢れた1日となりました。訪日外国人の多くが訪問を希望する「京都」。京都には日本古来の伝統や歴史が多く詰まっています。

留学生別科では、校外学習により「もっと日本の理解を深めたい」「日本文化や歴史を更に学びたい」と、日本語学習への意欲を高めるきっかけになればと願っています。



■ 名古屋芸術大学 芸大祭2023

2023年は「名芸十色」をテーマに、11月3日(金)より3日間の日程で東キャンパスにて開催されました。学生一人ひとりの個性が集結する芸大祭。今年は、出店やステージパフォーマンス等を「食・創・彩・遊・舞・音」と、6つのサブテーマに割り振ったことで、点と点が線となり、線と線が面と化し、学生一人ひとりの個性が結びつき、大きな絆を生み出しました。



- <執行部>東キャンパス実行委員長 舞台芸術領域 小田原 一華、西キャンパス実行委員長 デザイン領域 川嶋 玲志
- <企画部>美術領域 片山 愛唯、舞台芸術領域 小田原 一華、デザイン領域 赤木 杏里花、音楽領域 熊谷 菜々、音楽領域 竹内 陽音、デザイン領域 根橋 安奈
- <制作部>美術領域 片山 愛唯、音楽領域 木田 和奏、デザイン領域 木村 爽暉、美術領域 松本 瑛心、デザイン領域 渡邊 瑛二、舞台芸術領域 河合 仁衣菜
- <広報部>デザイン領域 川嶋 玲志、美術領域 瀬瀬 彩風、舞台芸術領域 田中 蒼真
- <総務部>美術領域 山崎 祐実、美術領域 古川 美月、デザイン領域 神野 聖大



## 寄附事業 「名古屋芸大サポーターズクラブ」 便り

本学の寄附事業は令和5年度より新たに「名古屋芸大サポーターズクラブ」として生まれ変わりました。

【名古屋芸大サポーターズクラブ】  
<https://nua-supportersclub.com/>



名古屋芸大サポーターズクラブは大学の発展と、その知財を原資とした地域・社会への還元による持続的な循環サイクルの実現を目指し、趣旨にご賛同いただける全ての皆様に自分事としてご支援をいただくために立ち上げました。従来的一般寄附に加えて様々な寄附メニューを多数新設しております。

皆さんは「クラウドファンディング」をご存じでしょうか？クラウドファンディングとは、不特定多数の人が、インターネット等を通じて、他の人々や会社、各種団体に資金提供などを行うことを指す言葉です。略して「クラファン」とも言われます。本学では、様々な研究活動や連携事業の広報から、支援の獲得、当該事業の成果発表の評価によって次の資金獲得へと繋がっていく好循環を生み出すことができる寄付事業として特に力を入れております。クラウドファンディングプラットフォーム企業であるREADYFOR株式会社と提携し、本学特設サイトを開設しており、令和6年度もたくさんの事業を実施しました。

いずれも地域・社会貢献や学生の学び、卒業生の活動支援にも繋がる社会性が高い内容となっており、その多くが目標金額を達成できたことは、趣旨にご賛同いただいた多くの皆様からのご支援の賜物と大変感謝しております（クラウドファンディングの特設サイトは上記のサポーターズクラブのリンクよりご確認いただけます）。

今後も様々なクラファン事業を展開してまいります。ご支援は金銭的なものだけでなく、SNS等で情報をシェア・拡散していただくだけでも事業に関わる学生たちの大きな力になります。是非とも保護者の皆様にも見守っていただき、継続的なご支援を賜りますようお願い致します。

その他名古屋芸大サポーターズクラブではブックオフコーポレーションと提携したリユース募金も行っております。リユース募金とは不要な書籍、CD、ゲーム等を買取りに出していただくとその買取金額がそのまま大学に寄附される仕組みです。無料の宅配買取にも対応しております。ご家庭の不用品の処分の際には気軽なご支援の方法として是非一度ご利用いただけると幸いです（詳細は上記のサポーターズクラブのリンクよりご確認いただけます）。





## 親の想い

### 関わっていただいたすべての皆様へ

芸術学部 芸術学科  
音楽領域 声楽コース  
4年生 母 濱口 麻祐子

娘が中学生の頃から、大学受験を受けるまで、部活動などで音楽活動をしないまま、学校が終わってからピアノと歌のレッスンに通う生活が大学生になるまで続いていました。私自身までも仕事が終わってから支援を続け、音楽とは無縁の家族の中でよくぞここまで来てくれたと・・・先日の本人の公演を終えて一人会場で涙していたのが本当のところでした。大きく飛びぬけた技量もなく、ただ根性だけはお墨付きです。

入学当時からコロナ下での生活で広い活動は行えませんでした。苦手なやり取りやチームでの取り組みを胸を痛めながら進める様子をただ応援するしかありませんでした。同じ学年で卒業を迎えた学生の皆さんはどのような思いで新しい生活を迎えるのでしょうか。

数少ない学部内の様々な道を歩んでいく皆様へ、自分達の過ごした全ての時間が前向きな未来でありますよう感謝の言葉と共にお礼申し上げます。



### 悔いのない選択を

芸術学部 芸術学科  
舞台芸術領域 舞台美術コース  
3年生 母 大橋 美佳

高校3年の夏休みが終わろうとする頃、娘が突然、映像や舞台上の美術に関する技術や知識を専門に学べる進路に進みたいと言いました。ところが愛知県には大学や専門学校も含めてそ



れらを学べる場所が見つからず、関東や関西での進学を考えていた中で、名古屋芸術大学にて新たに舞台芸術領域が新設されることを知りました。娘が学びたいことが叶えられるこのタイミングに運命的なものを感じ、2021年4月、娘は晴れて名芸の門をくぐりました。

娘は当初、舞台芸術領域の1期生となることに希望を抱くと同時に、先輩や伝統がないことへの不安を抱えてもいました。しかし入学後は同じ志を持つ多くの友人にも恵まれ、楽しくも充実した学生生活を送っています。娘の学びを支えて下さっている先生方や、娘と共に切磋琢磨している同級生の皆様には心より感謝致しております。

4月には4年生となり、学びの集大成となる卒業公演に向けての取り組みや就職活動など忙しい1年になることと思います。娘には大学生生活最後となるこの1年が有意義なものとなるよう、そして悔いなき選択をして未来に向かって進み続けてくれることを親として願っています。



# 子の想い

## 悪役の美学

芸術学部 芸術学科

音楽領域 ミュージカルコース

4年生 稲垣 舞

"悪が純粋な悪であるとき、それは大いなる美となる"  
(ジェームズ・ゴールドマン『冬のライオン』より)

黒が黒であればあるほど、白が浮き立つものだ。200色あると言われる白も、黒の前ではどれも素晴らしい白である。演劇において、悪役が悪役たる所以とは、自分の信じた正義がその世界では圧倒的マイノリティだということ。悪役は自分のことを悪だと思っははいけない。「私は悪役だア!」と言うのは、それはただの嫌な奴である。皆が正義を持っていて、それでも虐げられてしまう正義があって、でもだからといって悪が排除されるべきとなっははいけないのが演劇なのだと思は思う。救われる悪があってもいいじゃない。だってそれは、純粋から生まれた美しい黒なのだから。

演劇とは、現実世界に近い虚像。正解は無数に存在する。「絶対」はなく、創造しただけ正解が出来る。演劇の可能性が膨らむ。今日には今日の正解があり、明日にはまた新たな正解が生まれるだろう。演劇とは表現の解放であり、自由という世界への扉を開く鍵である。演劇は自由だ。さあ、まだ見ぬ自由の地へ行こう。



## 歌への想い

芸術学部 芸術学科

音楽領域 ミュージカルコース

1年生 立石 そら

大学生活が始まった当初とても不安だった。中学生の時、不登校。高校は通信制の学校。大学生活が本当に送れるのか?先輩や同期との関わり、授業についていけるのか?不安材料しかなかった。

高校生の時、人生で初めて挑戦した出来事があった。それは「NHKのど自慢」に出場したこと。これは人生を変える出来事だった。初めて大きなホール、生演奏、大勢の人やカメラ、緊張もあったが自分に対する観客の視線やホールに響いている声。あの感覚は今でも忘れない。

しかし、大学がいざ始めるとやはり不安の中。授業そして稽古。もうやめたいなと思ったこともしばしば。でも先生方や先輩方、そして一緒にやっている同期のおかげでなんとか歯を食いしばってがんばった1年間は、今振り返ってみると今までの人生で一番充実していた時だった。次は私が音楽で人々に感動を与えられる人になりたい。

「私は歌を死ぬまで歌い続けたい。」

「その夢を叶えるため自分に何ができるのか。」

その答えを自問自答しながら残りの大学生活で考え努力していきたい。



## 絵画グループ「壁の華」会員募集

絵を描くのは苦手ですか？誰でも最初は上手く描けるか不安です。

私達、絵画グループ「壁の華」は名古屋芸術大学後援会の有志により活動を続けています。

毎月一回、大学の先生方により懇切丁寧な指導を頂き、初心者の方も無理なく自然に絵画を楽しめる事が出来ます。

1年間を通して私達と絵画以外にアクセサリー、陶芸と芸術を楽しみましょう。

詳しくはメールにて連絡致します。

皆様のご参加、お待ちしております。



### 【活動状況】

1. 年会費：12,000円
2. 日 時：随時連絡
3. 開催場所：西キャンパス、その他
4. 受講科目：日本画・洋画・工芸



### 問い合わせ先

会 長 石黒 和広  
運営委員長 余吾 めぐみ  
e-mail : kabenhana.nua@gmail.com



## 「せせらぎ合唱団」団員募集

せせらぎ合唱団は、名古屋芸術大学後援会公認の合唱サークルです。

「みんなで歌って楽しもう」と在校生や卒業生の保護者が集まり1998年から活動しています。

「せせらぎ」とは、小川の流れやその音のことです。一人の声は小さいですが、仲間の声を聞き合わせると、素晴らしいハーモニーになります。

主に歌っているのは、皆様も聞き覚えのある日本語の曲ですが、なかには江端先生の編曲で「せせらぎオリジナル」にして歌ったりしています。

声を出すことで健康と楽しさを実感できるこのサークルへ、ぜひ参加してください。皆様のご参加、お待ちしております。

### 【練習日】



毎月第3土曜日の午後1時から2時30分まで

【場 所】主に東キャンパス4号館の3階の多目的ホール

【年会費】12,000円

### 【指導者】

本校の卒業生である山田正文先生と江端智哉先生により、発声の仕方から各パートの音取りを丁寧にご指導いただいています。

### 【活動内容】

芸大祭、名古屋芸術大学フィルハーモニー管弦楽団「第九」演奏会参加等。

### 問い合わせ先

会 長 平井 友明  
副会長 近藤 結花  
e-mail : jhonsunuputi38@gmail.com



## 後援会で一緒に活動しませんか

日頃より名古屋芸術大学後援会へのご理解、ご協力を賜りありがとうございます。

後援会は、名古屋芸術大学の目的と教育方針に基づき、学生の福利厚生と大学の教育研究活動への各種支援活動を行っている在学生の保護者の会です。

後援会のお子様方に充実した学生生活をお送り頂くとともに、保護者と大学教職員との親睦交流を図る研修、後援会報の発行、会員のための絵画とコーラスのサークルなど、みんなで楽しく活動しています。

後援会では、いっしょに活動していただける仲間を募集しております。どうぞお気軽にお問い合わせください。



会則はQRコードからご確認ください

副会長（総務委員長） 丹羽 里美

### 【お問い合わせ先】

tel : 0568-26-3355 fax : 0568-26-2101  
e-mail : kouenkai@nua.ac.jp



## 後援会賛助会員紹介

名古屋芸術大学グループに学ぶ学生・園児のためのよりよい教育・研究の環境づくりを支援  
地域との共生を通して名古屋芸術大学グループ全体の発展に貢献



### 株式会社クレアーレ 名古屋芸大グループ

CREARE

〒481-0006 愛知県北名古屋市熊之庄古井 281  
名古屋芸術大学東キャンパス 12号館 6階  
TEL(0568)26-3355 FAX(0568)26-2101

- 大学内図書館の運営
- 後援会事務局
- 損害保険の代理店
- 大学施設の貸出業務
- 学生生活支援(家電販売・Wi-Fiレンタル・住居斡旋など)
- 袴レンタル
- 自動車教習所連携
- 音楽教室
- 各種カルチャースクール



【本社・演奏事業部】



【名古屋音楽学校】



【名芸クリエイツ滝子】



## デザインから印刷・製本までトータルでお任せ！！

総合印刷

- ・チラシ・名刺・はがき・伝票・パンフレット・カタログ
- ・ポスター・自費出版・製本・企画・デザインetc...

## 有限会社 住吉孔版社

三重県四日市市住吉町 6-8

TEL 059-365-1924

FAX 059-364-2950

info@sumiyoshikouhan.co.jp

http://www.sumiyoshikouhan.co.jp

### 【編集後記】

はじめに「名古屋芸術大学後援会報第76号」の発刊にあたり  
ご尽力をいただきました関係者各位に心より感謝申し上げます。

今回の表紙は名古屋芸術大学卒業・修了制作展での後援会賞  
受賞作品の中から選びました。学生さんの素晴らしい作品もお楽  
しみください。

第76号は2023年度の広報委員での2号目の発刊となり編集  
がスムーズに進行し、会議が終わってからの情報交換も和やかで  
楽しい時間でした。

今後ともご支援とご協力のほど、よろしくお願いいたします。

副会長(広報委員長) 木俣 清子

### 名古屋芸術大学後援会報 第76号

- 発行日 令和6年(2024年)3月31日
- 発行人 恒川 和久
- 編集 名古屋芸術大学後援会広報委員会  
(木俣 清子、村瀬 裕子、濱口 麻祐子、大橋 美佳、中野 美樹、  
立石 恵美、西脇 綾子)
- 発行所 名古屋芸術大学後援会  
〒481-0006 愛知県北名古屋市熊之庄古井 281 番地  
名古屋芸術大学(東キャンパス)12号館 6階  
tel: 0568-26-3355 fax: 0568-26-2101  
e-mail: kouenkai@nua.ac.jp
- 印刷所 有限会社 住吉孔版社  
[無断転載禁止]

本誌掲載の記事(表紙、本文、図表、写真、イラスト等)を本会及  
び著作権者の承諾なしに無断で転載(翻訳、複写、データベース  
への入力、インターネットでの掲載等)することを禁じます。



# 名古屋芸術大学後援会

NAGOYA UNIVERSITY OF THE ARTS SUPPORT SOCIETY